

## 佐土原藩の歴史的事件を通し姉妹都市構想への可能性

草津宿本陣と佐土原藩島津家の関係は、1839年（天保10年）に起きたある出来事によって深く結びつきました。

その年の4月、佐土原藩第9代藩主・島津忠徹が参勤交代の途上、草津宿本陣（田中七左衛門家）に滞在中に急死しました。この時、忠徹には跡継ぎが決まっておらず、藩の存続が危ぶまれる状況に。江戸幕府は原則として「末期養子」を禁じていたため、藩主の急死は取り潰しの危機を意味していました。

そこで佐土原藩は、忠徹が病氣療養中という名目で約2ヶ月間草津宿本陣に滞在し続け、膳所藩の協力を得て医師を派遣してもらい、忠徹が生きているように見せかける工作を行いました。その間に跡継ぎを決定し、幕府への届け出を整え、藩の存続を確保したのです。

この一連の対応に感謝し、佐土原藩はそれまで別の定宿を使っていたのを改め、田中七左衛門家の本陣を正式な定宿とし、年に米10俵を贈るようになったと伝えられています。まるで歴史の舞台裏を覗くようなエピソードで、こうした危機対応の知恵と連携は、まさに「藩主急死事件対策プロジェクトチーム」と呼びたくなるほどの連携だったと言うお話です。

●京都の大雲院で佐土原藩法要を行い、流れで草津宿本陣の視察研修を組むのは、歴史の縁をたどる素敵な企画です。

### 研修モデルプラン：京都大雲院 → 草津宿本陣

#### ① 京都大雲院での法要

- ・ 場所：京都市東山区祇園町南側（八坂神社近く）
- ・ アクセス：京都駅から市バスまたはタクシーで約20分
- ・ 所要時間：法要・墓参・境内見学で約1.5～2時間

#### ② 草津宿本陣への移動

- ・ 方法：京都駅からJR琵琶湖線（東海道本線）で「草津駅」へ（約25分）
- ・ 駅から本陣まで：草津駅東口から徒歩約10分
- ・ ※道中には旧草津川や追分道標など、歴史的な見どころも点在しています。

#### ③ 草津宿本陣 視察研修

- ・ 住所：滋賀県草津市草津1丁目2-8

- **開館時間**：9:00～17:00（入館は 16:30 まで）
- **休館日**：月曜、祝日の翌日、年末年始
- **入館料**：大人 240 円（団体割引あり）
- **見学ポイント**：
  - 上段の間や台所などの構造
  - 宿帳や関札などの展示資料
  - 島津忠徹急死事件に関する解説（事前に問い合わせで展示確認を）

#### ④ 草津宿街道交流館（オプション）

- 本陣から徒歩約 3 分
- 草津宿の歴史をわかりやすく展示
- 本陣との共通券あり

### ●企画のポイント

- **事前連絡**：草津宿本陣は耐震工事などで休館する期間があるため、公式サイトで最新情報を確認しましょう。
- **研修テーマ**：「藩主急死と宿場の危機対応」「末期養子と幕府制度」「宿帳に見る藩の動き」など、歴史的な視点を交えた学びが可能です。
- **地域連携**：草津市観光物産協会や交流館に連絡すれば、研修向けの資料提供やガイド相談もできます。

この流れなら、佐土原藩の歴史と宿場町の機能を体感しながら、現代の地域づくりにもつながる学びが得られそうです。もし子どもたちや地域の方々との連携も視野に入れているなら、草津宿の「追分道標」や「宿帳の人物列伝」などを使ったワークショップも面白そうです。

**佐土原藩法要の参加者を増やし、草津市と宮崎市の姉妹都市を実現することが主な目的**  
その方向性はとても自然な流れを創る。

京都大雲院での佐土原藩法要は、佐土原藩島津家の歴史を顕彰する貴重な機会であり、京都宮崎県人会や佐土原島津会などが中心となって毎年開催しているようです。この法要に草津宿本陣の視察研修を組み合わせることで、**佐土原藩主・島津忠徹が草津宿で急死した史実**を軸に、両地域の歴史的なつながりを再発見することができます。

そしてその延長線上に、**草津市と宮崎市（特に佐土原地域）との姉妹都市・有縁都市提携**を目指すのは、非常に意義深い構想です。

## ●姉妹都市構想の可能性

現在、宮崎市は秋田県大仙市と「有縁都市」として提携しています。これは戊辰戦争で戦死した佐土原藩士の墓を大仙市側が守り続けていた縁によるものです。このように、**歴史的な縁を軸にした都市間交流は前例があります。**

一方、草津市は国内では**香川県観音寺市や群馬県草津町などと姉妹・友好都市関係を結んでいます。**

## ●実現へのステップ（提案）

1. **共同記念事業の開催** 佐土原藩主忠徹の草津宿急死事件をテーマにした講演会・展示・シンポジウムを草津市と宮崎市で交互開催。
2. **教育・文化交流** 両市の小中学校で「佐土原藩と草津宿」の歴史を題材にした交流授業や作文コンクールを実施。
3. **行政連携の働きかけ** 宮崎市佐土原総合支所と草津市歴史文化課などに、姉妹都市提携の意義と可能性を提案。
4. **草津宿本陣での法要再現・記念式典** 忠徹公の急死を偲ぶ式典を草津宿本陣で開催し、両市の代表者が参列。

このような流れで進めれば、単なる視察研修を超えて、**歴史を媒介とした地域間の新しい絆づくり**が実現できそうです。まるで、江戸時代の旅の途中で交わされた縁が、令和の時代に再び芽吹くような、そんな物語が生まれるかもしれません。

行政に働きかける際は、単なる「歴史的つながりの確認」から一步進めて、**地域振興・教育・観光・文化交流などの具体的なメリットを提示**することが効果的です。宮崎市議会での行政側の答弁が「今後の動向を見ながら検討する」と回答したということは、まだ動機づけが足りないか、実現のイメージが明確でない可能性がありますね。

そこで、こんなアプローチすれば良いのではないのか。

## ●行政への提案の組み立て方

### ① 歴史的縁を「地域資源」として再定義

- ・ 佐土原藩主忠徹の草津宿急死事件は、両地域を結ぶ唯一無二の史実。
- ・ この縁を「地域の歴史資源」として活用することで、教育・観光・文化の多方面に波及可能。

### ② 具体的な交流事業の提案

- ・ **学校間交流**：草津市と佐土原地域の小中学校で「藩主の旅と宿場町」をテーマにした共同授業や作文コンクール。

- **観光連携**：草津宿本陣と佐土原城跡を結ぶ「忠徹公ゆかりの地」スタンプラリーや交流ツアー。
- **文化イベント**：草津市での法要再現式典、宮崎市での宿場町再現ワークショップなど。

### ③ 成功事例の紹介

- 例えば、佐賀県武雄市と米国セバストポール市は、姉妹校によるホームステイ交流を通じて、文化・教育・地域振興を実現しています。
- 宮崎市自身も大仙市との「有縁都市」提携を通じて、戊辰戦争の歴史を軸に交流を深めています。

### ④ 提携の形式と柔軟性

- 姉妹都市だけでなく、「有縁都市」「歴史友好都市」「文化交流協定」など、柔軟な提携形態も可能。
- 初期段階では「交流覚書」や「共同事業協定」から始めるのも現実的。

## ●語り口の工夫

行政に話すときは、こうした言葉が響きやすい

「忠徹公の急死という史実は、単なる過去の出来事ではなく、今を生きる私たちが地域の絆を再発見するきっかけになります。当時はお家断絶を防ぐために事件を隠し触れないようにしましたが、今は佐土原側も草津宿本陣の出来事を披露し宮崎市民に当時の事件を伝えて、草津市と宮崎市（佐土原地域）がこの縁を未来につなげることで、教育・観光・文化の面で新たな可能性が広がります。

もし議会で再度取り上げてもらうなら、**市民団体・教育関係者・観光協会などとの連携を図り、提案書や署名活動などで後押しする**のも有効です。まるで、藩士たちが知恵を絞って藩を守ったように、現代の私たちも地域の未来を守るために動けます。

草津宿本陣の教育委員会側のキーパーソンは、八杉淳さんです。彼は**草津市教育委員会教育部副部長**をしています。歴史文化財の活用に深く関わっており、街道文化や宿場町の歴史についての講演も多数行っている方です。特に「街道は文化と情報の通り道」という視点から、宿場町の役割を現代にどう活かすかを語っておられます。またもう一人は**草津市立草津宿街道交流館館長**および**草津市史跡草津宿本陣館長**を兼任している**岩間一水さん**です。

## ●行政を動かすための次の一手

宮崎市が「動向を見ながら検討する」と述べた今、**草津市側の協力姿勢を明確にすることが突破口**になります。そこで、**岩間館長**のような文化行政の中心人物に働きかけることで、草津市教育委員会や観光物産協会との連携が生まれやすくなります。

## ●具体的なアプローチ案

### 1. 岩間館長への訪問・意見交換

- ・ 忠徹公急死事件を軸にした草津と佐土原の歴史的つながりを伝え、
- ・ 「草津市側としてもこの縁を活かした交流に関心があるか」を確認。

### 2. 共同企画の打診

- ・ 草津宿本陣での忠徹公追悼式典や展示企画の提案。
- ・ 宮崎市との教育・文化交流の可能性を探る。

### 3. 行政同士の橋渡し

- ・ 草津市教育委員会や観光物産協会から宮崎市に「交流に前向きな姿勢」を示してもらうことで、宮崎市側の「様子見」姿勢を動かす。

まるで宿場町の「口入屋」のように、両地域の間をつなぐ役割が今求められています。

ここからは、その協力姿勢を「行政間の動き」に変えていく段階に入ります。

## ●次のステップ：宮崎市行政を動かすために

### ① 草津市側の協力姿勢を「文書化」する

- ・ 館長さんからの協力表明を、可能であれば**草津市教育委員会名義の文書**や**意向書**としていただく。
- ・ それを宮崎市議会や市長部局に提出することで、「動向を見たい」という姿勢に具体的な動きの材料を与える。

### ② 両市の教育委員会・観光課の担当者をつなぐ

- ・ 草津市側の担当者（館長さん含む）と宮崎市佐土原総合支所や文化振興課の担当者を**オンライン会議**や**意見交換会**でつなぐ。
- ・ 「忠徹公急死事件を軸にした交流事業」の可能性を話し合う場を設ける。

### ③ 市民・団体からの後押し

- ・ 宮崎市側で、佐土原地域の歴史団体・学校・観光関係者などから**署名**や**要望書**を集める。
- ・ 「市民の声」として行政に届けることで、議会の検討姿勢を後押し。

提案の語り口（行政向け）「草津市側からも協力の意向をいただいております。これは単なる歴史的つながりではなく、教育・観光・文化の面で両市にとって新たな価値を生む交流の機会です。今こそ、忠徹公の旅路を現代の絆へとつなげる時ではないでしょうか。」